

まちづくり相談処



machi-kura

油 長 内 蔵  
あぶら ちょう うちくら

「普請」には、「力を合わせて作業に従事する」という意味があります。  
地域ぐるみで協調して進める  
住まい・まちづくり、  
まち蔵を拠点に始まります。

旧日光街道にほど近く  
越ヶ谷らしい景観を  
そこここに残す中心市街地の一画。

いえ普請、みち普請、まち普請

江戸時代末期からひっそりと  
たたずんできた「油長内蔵」は、  
曳家・改修を経て現代にのみがえり  
地域住民のまちづくり相談処、  
寄合処として再デビューしました。



### 「油長内蔵」の建物概要と主な設備・備品リスト

●1階: 24.48㎡(約15畳大)  
多目的フロア、キッチン、トイレ

●2階: 24.48㎡(約15畳大)  
倉庫、保管展示スペース

設備: キッチン(IHコンロ付)、トイレ、洗面所、ガス給湯器、エアコン2台、外水道  
備品: テーブル3台、椅子10脚、ベンチ1台、テラス用テーブル2台、折りたたみ椅子6脚、ローテーブル2台、本箱2台、大型液晶テレビ、冷蔵庫、電子レンジ、コーヒーメーカー、電気ポット等



**まち蔵(まちづくり相談処・油長内蔵)ご利用案内**

■所在地  
〒343-0813 埼玉県越谷市越ヶ谷三丁目2-19-5

■交通  
東武スカイツリーライン「越谷駅」より徒歩5分  
※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

■開館時間/10:00~17:00  
イベント開催時には変更する場合があります。

■休館日/毎週水曜日、年末年始。  
その他随時に休館することがあります。  
※休館日やイベント予定等はホームページでご確認ください。

■入館料・相談料/無料

■お問い合わせ  
TEL 080-9558-5821  
Mail info@machi-kura.com  
URL http://www.machi-kura.com

【まち蔵の運営について】まちづくり相談処「油長内蔵」を活用して、越谷市中心市街地の街なか居住と景観まちづくりの推進及び越ヶ谷宿の魅力向上を図るために、NPO法人越谷市住まい・まちづくりセンター、越谷商工会議所、株式会社中央住宅の3者を構成団体として「油長内蔵運営協議会」を設置しました。構成団体による役員会を議決機関とし、運営実務は登録団体、支援団体、アドバイザー等で構成する運営会議で企画し、運営事務局が代行します。

【油長内蔵運営協議会】運営事務局  
NPO法人 越谷市住まい・まちづくりセンター  
〒343-0806 埼玉県越谷市宮本町2-185-12  
TEL.048-965-5358 FAX.048-966-7066

このパンフレットは、埼玉県NPO基金(一般財団法人さいたま住宅検査センター 住まいるまちづくり支援事業)の助成を受けて作成しました。

# よみがえる「蔵」

越谷市は旧日光街道の通る歴史ある街。

そのため歴史的な建造物も多く見ることができましたが、開発が進む中で古き良き景観は失われつつあります。そんな地に江戸時代末期に建てられた古い蔵がまるで江戸末期から時が止まっているかのようひっそりと佇んでいました。

ここで分譲住宅の開発に着手した株式会社中央住宅では、蔵を取り壊し、ただ新たに何かを建てるのではなくその蔵を修繕し、街のシンボルとなるように配して越ヶ谷らしい原風景を継承すると共に、地域のために役立てることはできないかと考えました。

そして、内蔵と米蔵、粕蔵の三棟のうち、比較的保存状態の良かった内蔵を残すことになりました。重さ一〇〇トン以上の蔵は曳家工法を使って動かす、その後二・八〇度回転させます。

移動の際には近くの小学校の三年生二二〇人が課外授業の一環として曳家を体験しました。その後の改修工事では、

一、二階の床は張り替えたものの、天井や梁などの構造材はそのまま再利用。外壁の漆喰を塗り替え、屋根は元の瓦を使って仕上げ、新たにトイレとミニキッチン、棚などを設え完成しました。

生まれ変わったその蔵は「まちづくり相談処」となり地域活性化の拠点であると同時に、地域住民の方々のコミュニティ創出の場となっていく予定です。



Source: Otsuka

越谷市越ヶ谷三丁目には東武伊勢崎線「越谷」駅の北東に位置し、「越谷市役所」など公共施設を擁する越谷市の中心地として機能するエリアです。エリアの北から東にかけて元荒川が流れ、「水郷こしがや」と呼ばれる越谷市を代表する、水と緑豊かな景観を見ることが出来ます。

江戸時代に日光街道が整備されると、越谷には江戸から数えて三番目の宿場が設けられました。当時の越ヶ谷宿は日光街道の宿場の中でも、千住宿に次ぐ規模を誇っていたといえます。越ヶ谷宿周辺は元荒川や葛西用水が近いことから農業も盛んで、宿場としての機能に加え物資の集散地として商業も栄えていました。現在も旧日光街道沿いに広がる「越谷市本町商店会」の通りには、旧商家や土蔵など歴史的な建造物が現存し、宿場町風情ただよふ当時の面影を感じることが出来ます。

エリア北部に位置する久伊豆神社の境内には、県指定旧跡となっている幕末の国学者平田篤胤の仮寓跡や、篤胤の門人が奉納したといわれる県指定天然記念物の藤の老樹が枝をひろげています。平田篤胤は幕府の忌憚にふれ隠退を命ぜられた際に、越谷の地に門人の山崎篤利がいたことからしばしば当地に滞在していたと伝えられています。



# 越ヶ谷宿の歴史と景観

2015年4月中核市に移行した越谷市の人口は現在微増を続けていますが、2021年に約34万人をピークに減少に転ずると想定されています。これまで、郊外型開発・再開発や、車中心のまちづくりが盛んに行われてきましたが、一方で行政機能が集中し、かつて交通や文化の要衝であった中心市街地の空洞化が深刻化してきました。

また、市内の空き家率はさほど高くないように見えても、住宅総数・供給数が多いので、発生予防の対策に着手しないと爆発的に増える可能性があります。少子高齢化がますます進むこれから、私たちは「まち蔵」を拠点に、子育て家族や高齢者にとって安全・便利・快適な、街なか居住を推進し、空き家の発生予防と地域経済の活性化を図ります。

## まち蔵の機能①

まちづくり相談処には、建築やランドスケープデザイン、不動産コンサルなど、まちづくりの専門家が待機し、景観まちづくりを推進するために、建築物やまちなみの保存・形成について相談を受けたり計画をたてます。なかでも空き家対策に力を入れます。



## 住 住まい・まちづくり相談会

相談会を定期的に開催し、地区内建物の新築及び改修工事を行う際に、越ヶ谷宿に合った景観になるよう誘導・支援します。



## 空 空き家・空き地相談会

相談会からの案件を空き家バンクに登録し、民事信託にて受託し有効利用を図ります。地区内の空き家・空き店舗を活用することで地域循環居住を推進します。



## 景 景観協定地区の運営支援

景観整備機構として、隣接地の「このは越ヶ谷景観協定」の運営やみどりのワークショップを支援し、住民主体のまちづくりを推進します。

## 「まち蔵」を拠点に、できること。 NPO+企業+商工会=公民産学協働で運営



## まち蔵の機能②

ひととまちをつなぐ「場」の提供をします。度々立ち寄り、資料を探したり、仲間を探したり地域住民の滞在型の拠点として利用していただきます。また、エリア内の古民家・蔵ネットワークを活かし、住民主体の新しいコミュニティを創出します。

## カ まち蔵カフェ

コミュニティカフェや、地域のふれあいサロンとして活用するなど、地域コミュニティの再生を図ります。

## ス スペースシェアリング(レンタル)

イベントスペースや日替わりショップなど、地域住民による運営を支援し、レンタル料も安く提供します。

## 資 越ヶ谷宿まちづくり資料館

蔵の一部をまちづくり資料館として、住まい・まちづくり関連の資料や蔵書を保管・展示します。

# 目指すのは、景観まちづくりによる街なか居住の推進